

年間研修計画の工夫

小学校

児童の実態を把握したり、共通理解したりして、適切な支援を行うための取組

○ 実践の概要

本校では、校内特別支援委員会を発足し、特別な教育的な支援が必要な児童の実態や指導方法等について、学校全体で共通理解を図っています。

校内特別支援委員会は月1回予定し、臨時で開催することもあります。

また、町教育研究所の特別支援部会、町教育支援委員会、スクールカウンセラー、教育局専門家チームによる巡回相談と連携して運営しています。

通常の学級に在籍する特別な教育的支援が必要な児童の実態を把握し、適切な指導や支援を行うために、スクリーニングシートや実態把握シートを活用しています。

また、パートナー・ティーチャーや教育局専門家チームの巡回相談員からは、授業参観などを通じた実態把握を踏まえて、指導や支援に関わる助言をいただいています。

スクールカウンセラーには、児童や保護者の悩み相談などに対応していただき、全教員が共通理解を図るため、校内研修で事例報告会を開催しています。



【校内特別支援委員会の様子】

○ 実践の成果

本取組では、特別支援教育に関わる研修等を校内特別支援委員会において計画的に進めることで、特別な教育的支援が必要な児童をピックアップし、実態に即して継続的に指導や支援ができるようになりました。

また、その経過等を校内研修で報告することで、教職員全体で共通理解を図ることができました。

さらに、パートナー・ティーチャーや教育局専門家チームの巡回相談から助言を受け校内研修の内容を充実させることができました。